吐爾扈特郡王の衙門

爾扈特郡王の衙門あり、同王は目下我國に游學中なるは、普く世人の知れる所なり。附近一帶氈幕の處々點在するを見る。氣候は六月最も暑く、十一月最も寒し、其南山約五里餘の處より、砂金及松樹を出すと。沿道黃色の野花開き、柳榆發芽す。惟ふに故國の昨今は、爛漫たる櫻花既に謝し去りて、流鶯空しく野外に囀じ、楊柳影濃にして、薰風將さに至らんとする時なるに、此地は春稍〻整はんとして、尙ほ雪を見ること有り。殊に六月極暑、十一月極寒と云へば春夏秋冬偏に我國の季節を以て律すべからず。現に極暑の期に近づけるに野草漸く花開き、柳榆僅に芽角を見る是れ春の趣ならずや。而も寒暖計を按ずれば、午前は五十六度、午後は八十四度を示せり。夏の如く冬の如く、又冬の如く夏の如し。之を春以外の春とせんか、夏以外の夏とせんか、予は其の季節の何れに配すべきを知らず。

野草花咲き柳榆芽を發す

五月一日墩木達（トンムタ）を經て行程約十里、古爾圖（クルト）に、二日同じく十二里餘を進みて托多（トタ）に宿す。一日の行程は緩斜の昇路に屬し、且つ處々濕潤の地多く、灌木雜草のみ繁茂す。二日の行程は發途約一里間は磧原を成し、他は往々濕地に遭遇するも、一般に黃土砂を交えて平坦、且つ梧桐の大森林蔭蔽せり。

梧桐の森林